

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。  
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

タイトル	VV マニュアル：バリデーション・ベリフィケーションマニュアル使用の経験 VV Manual: The experience in using the Validation and Verification Manual
主催	IETA ( International Emissions Trading Association )
日時	2004 年 12 月 9 日 ( 木 ) 15 : 00 ~ 17 : 00
主要討論者	Mr. Einar Telnes (DNV)、Mr. Gareth Phillips (SGS)、Mr. Werner Betzenbeichler (TUV)、渡邊 格氏 ( JQA ) 、 Mr. Johannes Heister (世界銀行)
傍聴者	約 20 名
目的	バリデーション・プレバリデーションプロセスのチェックリストとして用いられているバリデーション・ベリフィケーションマニュアル (VVM) について、技術的提案、改善事項などを提示する。
発表の概要	<p>&lt; 利点 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ VVM は、プロセスの理解、監査チームの編成資料、クライアントによる DOE の比較材料、アセス結果報告のテンプレートとして有用である。</li> <li>・</li> </ul> <p>&lt; 問題点 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マニュアルはチェックリストでしかなく、背景が分かる資料がない。</li> <li>・ 追加性ツールの考慮をしなければならない。</li> <li>・ バリデーターがデータを深く検証するよう推奨するようなものにする必要がある。</li> <li>・ 現在の Witness や登録の 件数を踏まえると、バリデーションにかかるコストは高くなるだろう。</li> <li>・ ベリフィケーションプロセス自体の改善が必要</li> </ul> <p>&lt; CDM 理事会との関連 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ VVM は EB に承認されたものではなく、OE 側が整備しているもの。ボトムアップで EB の承認を受け、OE 業務の円滑化を図りたいところ。</li> <li>・ EB および AP (OE 認定パネル) がバリデーション、ベリフィケーションの業務内容を深く理解していない。OE 側が EB へのインプットを行ったり、EB での審議を望むが、EB の資金力、作業量を考えると、迅速な対応は見込めない。</li> </ul> <p>&lt; 改善案 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ VV マニュアルをバリデーター研修に使っている。固有プロジェクトにあわせた改訂が必要。</li> <li>・ マニュアルの使えるスコープが限られており、更なる作業が必要。</li> <li>・ CDM プロジェクト活動及びバリデーション報告書のフォームに改善が必要。</li> <li>・ マニュアルのメンテナンス、アップデートの確保</li> <li>・ VVM への改訂には、事業者の積極的な参加が有効である。</li> </ul>

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。  
 This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

	<p>&lt;今後の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 報告書のフォーマットの改訂</li> <li>・ COP で EB と DOE 間のコミュニケーションを図りたい。</li> <li>・ OE による検証は規制の一種である。迅速な変化は難しいのではないか。</li> </ul>
<p>資料</p>	<p>なし</p>

文責：川村美穂子